

桜のキャンパス渡り鳥調査ワークショップ/ 冬の湾奥水鳥調査 ISSN 2185-632X

すずがも通信

認定NPO法人 行徳野鳥観察舎友の会 会報 第217号

2016年4月1日 発行

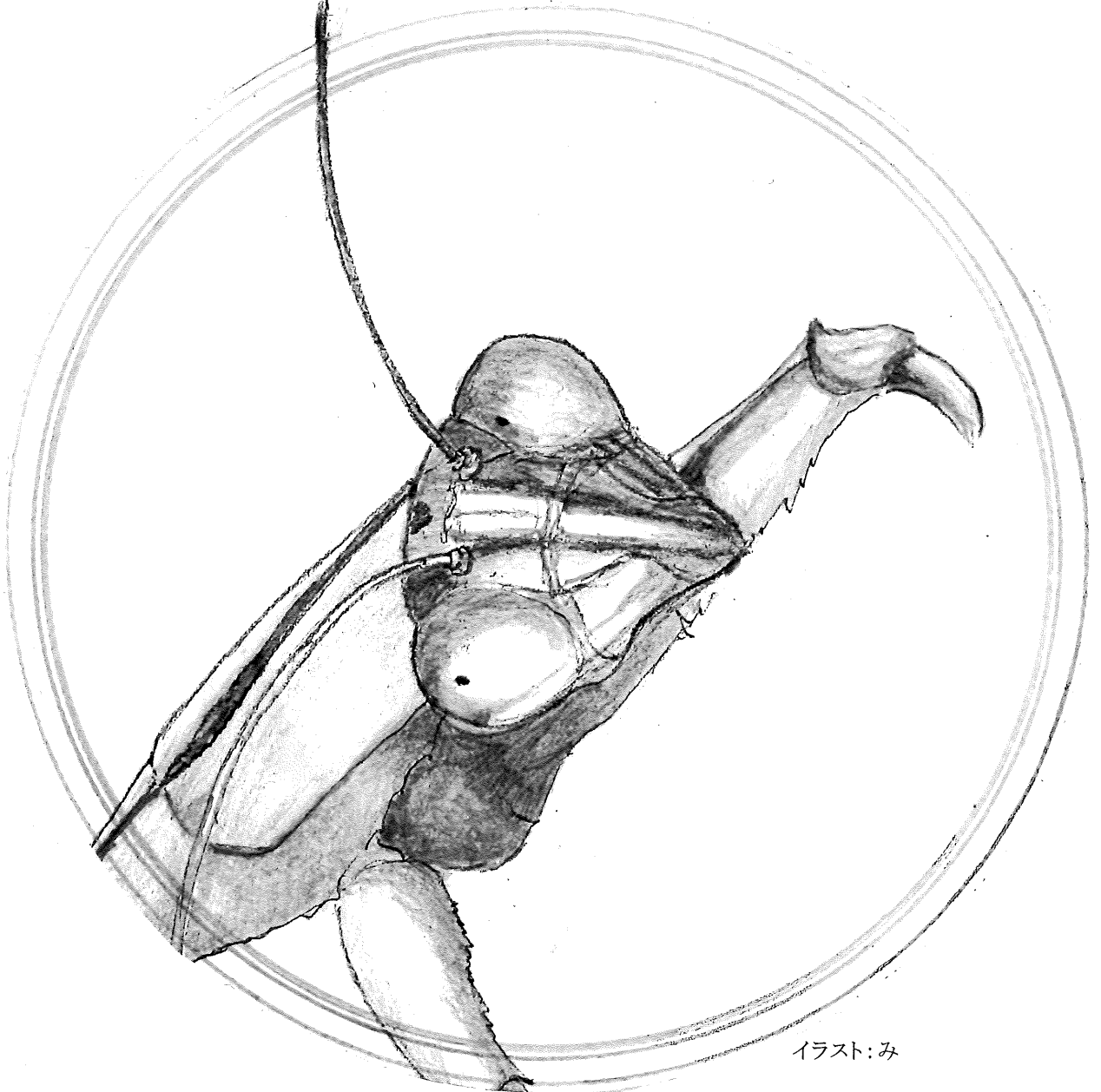


イラスト:み

観察舎休館から 3 か月

平成27年12月28日から観察舎は無期限休館中です。昨年県が実施した耐震調査の結果が安全基準を下回り、利用の安全が図れないとの理由でした。県の行政改革審議会では、解体という方向が出されたらいい、観察舎の必要性に理解を示す意見も出され、利用者の多くを占める地元の市川市との協議を求めています。市川市の大久保博市長は、千葉県に観察舎の存続を求める要望書を提出し、市として県に協力する考えがあることを表明しました。

行政改革審議会での審議は今後も継続されます。観察舎再開を望む要望や署名が出され、地元で観察舎再生にむけた署名活動をしている「行徳野鳥観察舎を愛する者一同」の方によると、署名は15000筆を超えたとのこと。

観察舎の業務は3月上旬に、傷病鳥舎横の小さな旧管理人棟に引越しました。机や電話、コピー機やパソコンなどを移設し、更衣室も手作り。せまいながらボランティアさんの活動・休憩スペースも。スタッフ・ボランティアさんともども肩寄せ合って「おしくらまんじゅう状態」だけれど、行徳保護区の自然の素晴らしさを発信していきたいという気持ちは忘れません。

多くの方に支えられています。日々傷病鳥舎前を通る地元の方々、そして、観察舎休館後すぐに特集記事を組んで下さった自然保護団体の皆様。全国の、そして海外の方々からも応援の声をいただきました。

本当にありがとうございます。

現在は、まだ行政改革審議会の審議中で、県・市から具体的な方向性はでていません。

私たちは年明け以降、新しい観察舎がつくられるとしたらどんなこと求められるのか、そんなことを話し合っています。高いところから保護区が見渡せること、学校の一クラスの人数は入れること、できれば、観るだけでなく、いろんなことを体験できること。

今の状態でも何かできることはないだろうか。たとえば仮設の観察台を設置して、来られる皆様に鳥や保護区の景色をみていただくなど。県にお話ししてみることにしました。

学校の利用については最近では社会科見学を中心に多くなっただけに、今回の休館はとも残念ですが、どうにか今後につながっていくことを願っています。

多人数の方が自由に使えるトイレがないのがやはり不便です。

トイレの問題は、周辺を通るの方々にとっても切実で、観察舎の再生とは切り離して考えたとしても、至急の課題であるように思います。(清水 大悟)

表紙：カマキリ イラスト：み レイアウト：町田 安男

インターンで学んだこと、これからやりたいこと

観察舎で6月から実習をさせて頂いています。

野鳥の救護施設を覗いてみたく、また行徳保護区の環境についても知りたいと思い、インターンを志望しました。傷病鳥の世話や保護区内観察会の参加など、ほとんどが初めてのことであり、良い経験を多く得られました。

野鳥病院では、鳥を触ったり持ったりする機会が度々あり、そのような場合、力加減や、鳥の動きがわからず苦労しました。とくに、餌を自力で食べられないカワウやクロツラヘラサギの喉に、魚を押し込むのは難しかったです。ですが同時に、保護下にある動物に対し、余計なストレスやケガを与えずにいかに処置を施すかを学べたと思います。

保護区に網を仕掛け魚を捕る、江戸前干潟研究学校では、淡水魚から海水魚、カニや貝など多くの種類の生物を確認し、東京湾の環境を少しでも知ることができ良かったです。捕まえた数百の魚を、毎回取り分け数えており、月によっての魚の増減なども示され、面白い観察会でした。手伝う側で参加したので、参加者の層や、観察会中の時間が気にかかったりと、別の視点を得られたことも、収穫の一つです。

残りのインターンの期間では、保護区の環境について少しでも調べたいと思っています。観察舎の休館のこともあります。自分がこなせる限りのことはできればと思います。

(両川 昂己)

ミヤコドリの剖検

2月14日、ミヤコドリの剖検を見学させていただきました。

左の鼻から黄色い分泌物？、腸には少しの範囲でしたが、点状出血、壊死、腫瘍がみられました。寄生虫は、卵はわかりませんが、成虫は見当たりませんでした。

肺に白い点があり、敗血症であったと思われました。

またメスということと、ミヤコドリは胆嚢があるということもわかりました。とても勉強になりました。

(山本碧)



1月7日に三番瀬から入院したミヤコドリ。

残念ながら亡くなった。

それでも春はやってくる ~常勤スタッフによる保護区・観察舎情報~

最高気温が前日の倍だったり半分以下だったり、三寒四温とは言え寒暖が極端な気が…

○保護区

浄化池 3 系列の植生管理作業は降雨で断続的な中断があったものの何とか一通り終了。揚水ポンプ配管の一部から漏水があり、水を戻すのは修繕後。元は震災で破損した管を修理した箇所のはころびで、奇しくも 3 月 11 日にその応急処置をしています。あれから 5 年経ちますがその影響はまだ保護区内各所に残っています。

しばらく手つかずで一面ガマに覆われていた田の字池。池内の草刈りを進めてだいぶ水面が見えるようになりました。毎年カイツブリが営巣しており、観察会時に見える場所で営巣してくれるとありがたいところです。

保護区外周部では管理通路の落ち葉かきがほぼ終了。とはいえ年末に掃除した最初の部分には既に松葉などが溜まり始めています。積もり過ぎないうちに時々手を入れた方がよさそうです。カワウコロニーではヒナが続々誕生中。2 月中頃 2 週続けて雨風の強い日がありかなり勢いが落ち込みましたが、そこから少し盛り返してきたようです。ヒナの鳴き声が風に乗って観察舎の方まで聞こえることも。コロニー内では今年もアオサギが営巣しているようです。北池でもガマの上で営巣中で 4 巣ほどある模様。冬の鳥は今号が出る頃には大半がいなくなっているでしょう。10 月末から居ついていたヘラサギは 1 月下旬以降いなくなり葛西臨海公園の方に移ったようですが、3 月 8 日に一度出現しています。

アカガエルの卵塊は昨年より大幅増で 2 月下旬から総計 30 以上。ヒキガエル卵はさっぱり。観察路にはタネツケバナやムラサキサギゴケ、オオイヌノフグリ等春の小花が色を添え、特に刈り開いた築山の斜面ではヒメオドリコソウとホトケノザが群生して一面が紫です。保護区内で一番早咲きの湊池のサクラも 3 月最初の観察会時に咲き始めていました(例年は 3 月中旬頃)。暖くなるにつれて植物や他の生き物たちも動き始めたようです。

○観察舎

本稿執筆時では観察舎の行末は未だ不明。行革審の結果が出ないことには県自然保護課もなかなか動けないようです。2016 年度は野鳥病院・保護区業務は前年度と変更無く、観察舎での利用者対応関連業務や公開講座等が廃止。観察会や緑の国は継続です。トイレは当面観察会等イベント参加者や団体利用者、緊急の場合については観察舎のものが利用可。仮設含む早急なトイレ整備の要望を出しましたがこちらも時間がかかりそうです。3 月 10 日から管理人棟(禽舎横旧蓮尾宅)に事務機能を移転。今後は電話応答に時間がかかる場面も増えるかと思います。ご迷惑をおかけしますがどうぞよろしくお願いいたします。

○今後予定

桜の花の観察会(4/2)、江戸前干潟研究学校(4/17、5/14)、フィールドミュージアム(4/24、5/29、6/26)、谷津干潟の日出展(6/4・5)を予定。浦安市での定期カウントや県内カワウ調査業務も新たに始まる予定。皆さまの参加・ご協力をお待ちしております。

文：野長瀬・山口 友の会 Facebook もよろしく <https://www.facebook.com/npoFGBQ>

屋久島やまがら便り

その37

島のおやつ〜かからん団子

まだ少しの寒さが残る中にも、落葉樹の若葉が芽吹き、ウグイスが囀りはじめ、一步ずつ春の足音が聞こえてきました。超早場米の島の田んぼには既に水が張られ、3月下旬には田植えも始まることでしょう。春先のお天気のいい日には、畑の脇などに座り込んで休憩中のおばあちゃんたちの姿をよく見かけます。一番いい時季のヨモギの葉を摘んでいるのです。たくさん摘んだものは年中いつでも使えるように、ソーダを入れた湯で茹でてアク抜きしたものを冷凍保存しておきます。

屋久島の郷土菓子の一つに、「かからん団子」というのがあります。見た目は柏餅に似ていますが、柏の葉ではなく、かからの葉を使います。「かから」とはこちらの方言でサルトリイバラやサツマサンキライのこと。上新粉とヨモギと砂糖だけで作るシンプルな団子です。



かからん団子。四角いのはかからの代わりにクマタケランの葉に包んだもの。

上新粉1キロに対し、ヨモギも1キロ、砂糖も1キロ、とレシピもいたってシンプル。ただし島のおばちゃんたちのレシピは何でも分量が多め。これでたぶん80個

くらいできちやいます。ヨモギの繊維をつぶし、砂糖、粉を入れ、水をちょうどいい硬さになるまで様子を見ながら少しずつ加えてよく捏ね、丸めたものを葉っぱで挟んで蒸します。ザラメを使ったり、黒砂糖を使ったり、黒砂糖と白砂糖を混ぜたりと、人それぞれ。大量のヨモギが入るので、できあがりには黒光りするくらい深〜い緑色をしています。よくある若草色の草餅のイメージとはちよ

っとかけ離れているかもしれません。ふんだんなヨモギの香りと、かからの葉の香りを楽しむ、素朴だけれど自然の恵みがいっぱいだったおやつです。

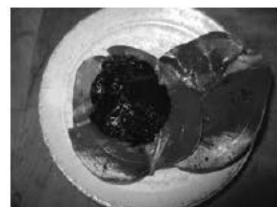
かからん団子は鹿児島島の薩摩半島中南部や大隅半島、種子島でも作られ、ヨモギの代わりに小豆のさし餡を練りこんだものなどもあります。私の郷里は山口県ですが、子どもの頃食べていた柏餅は、今思えば柏の葉ではなくてかから(とは呼びませんが)の葉で包んでありました。どうやら西日本では柏の木はあまり分布しておらず、サルトリイバラやサンキライを使うことが多いようです。鹿児島ではニッケイ(けせん)やクマタケラン(まきの葉)なども使います。

私も何度かかからん団子の作り方を教わったのですが、材料を揃えるのが難しく、まだ自分で作るには至っていません。でも庭にある日突然サルトリイバラが生えてきたので、移植して大事に育てているところです。ヨモギが少々生えている一角もあるので、そのうち5個くらいは作れるかも！？

(2016年3月12日・瀬戸山瑞香)



サルトリイバラは葉裏が白く、サツマサンキライは緑色。ともにユリ科のつる性植物で、どっちもかからと呼ぶ。



ウグイス

ウグイスは実はウグイス色ではありません



美しいさえずり声もせまい治療室でさくどけっこううるさいです



友の会インターンに聞く！

今期は3人のインターンが活躍してくれています！

まずはYちゃんにインタビュー★



▼なぜ友の会のインターンになったの？

元々野鳥の写真を撮るのが好きで、鳥に興味を持ちました。獣医学科というもあり、鳥の病院に見学とか行ってみたいなと探していたところ、行徳野鳥観察舎を見つけました。実は、最初はアルバイトとして応募したのですが、もう埋まってしまうので、スタッフにインターンを紹介してもらいました(笑)

▼インターンをしてみてびっくりしたことは？

行くたびにびっくりすることは多いです…笑
最近一番びっくりしたことは、飛んでいる(※)ユリカモメを捕まえたことです。まさか自分が野生のユリカモメを素手で捕まえる日が来るとは思っていませんでした(笑)
あと、保護区で発生した青潮で、大量に死んでしまったアカエイの回収も減多に出来ない経験をさせてもらいました。においがすごく強烈でした(笑)

▼これからやってみたいことは？

野鳥病院の治療室の世話も少しずつできるようになりたいです。
あと、エサの魚を上手に切れるようにしていきたいです(笑)

Yちゃん、ありがとう！魚切りにはコツがあるので、スタッフでも苦手な人もいます…。獣医さんの卵として、いろいろ体験してってくださいね☆

※観察舎の前を流れる丸浜川で行われているカモメ類の捕獲調査は、冬季の風物詩となっています。指導者のもと、捕獲許可を取って行っているものです。

ちょっと珍しい患者さんたち

この季節は冬の鳥たちの入院が増えてきます。中には野鳥病院には滅多に入らない種類も。

まずはミヤコドリ。張られた網に引っ掛けて脚を痛めて入院してきました。当初は立つこともできなかったのがやがて歩き回るまでになり、スタッフが各々自腹で貢いだ貝を良く食べていましたが、順調に回復してきていたのも束の間、容態が急変し残念ながら三途の川を渡りました。お疲れ様！

そしてクロツグミ。彼らは夏鳥なので、なぜこの時期に！？と驚くスタッフたちはあーだこーだと推理ごっこ。当の本人(鳥)は大きな怪我もなく、箱の中でよく食べよく飛び回り「早く外に出たい！」と絶賛アピール中。暖かくなるまでもうちょっと待ってね！(懇願)入院した鳥は怪我の部位やそれぞれの個性などによって餌や世話の仕方などを少しずつ変えていきます。特に珍鳥患者さんは試行錯誤の連続で、日々勉強であることを痛感します。

頑張れ、みんな！



ミヤコドリ

野鳥病院新聞

2016年(平成28年)

1月～2月号

第42号

担当：すずき

元気になりました！

前号のびっくり箱ことカンムリカイツブリ。その後順調に回復し無事放鳥。さらに後日2羽のカンムリカイツブリが入院しましたがどちらも大した怪我はなく、しばらく入院したのち彼らもめでたく放鳥しました。

野鳥病院のチューバッカ逝く

仮設禽舎で頑張っていた起立不全のトビが2月の半ば、体調を崩しそのまま還らぬ鳥となりました。彼のトビは2015年1月に入院。その面立ちによりスタッフたちから「チューバッカ(スターウォーズ参照)」の愛称で親しまれていました。自力ではほとんど食べようとはせず、スタッフから差し出されたお肉や魚を「ピュルピュル」と声を上げながら嬉しげに食べるという、ヒナでもないのになんとも甘ったれた性格をしていました。

自立した鳥が餌をねだる行為を野鳥病院では幼児返りならぬ「ヒナ返り」と呼んでいます。脳の障害か個体の性格か…何故そうなるのかは不明ですが、入院してきた鳥の中にはヒナ返り現象を起こす個体のごく稀にいます。チューバッカがそうだったのどうかは分かりませんが、餌をねだる姿についつい「大丈夫かなこの子…」と思ってしまうのです。立つことも飛ぶことも自力で食べることもできずに1年間も頑張ったチューバッカ。今頃きっと大空を自由に飛んでいることでしょう。

川上正敬

《今季のトピックス》

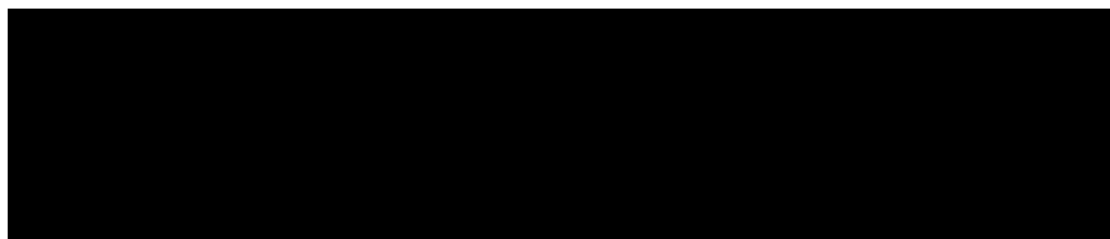
1. 2/8、カワウコロニーに雛の姿が見られるようになりました。
2. アオサギの繁殖が始まり、北池に6巢はあるようです。2/15には抱卵している様子が見られました。
3. 2月半ばになると、カイツブリ、シジュウカラなどの声が大きくなり賑やかになった感じです。2/27にはウグイスのさえずりが始まりました。
4. 今季はホシハジロが例年より多く、2月下旬には北池に400羽を越すようになりました。
5. 近年、以前は珍しかったウミアイサが頻繁に見られるようになりました。

[illegible]

No.	科名	種名	1/1	1/11	1/19	1/24	2/1	2/8	2/15	2/22	2/27
46	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
48	ウグイス科	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	メジロ科	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	ヒタキ科	シロハラ	○		○		○		○	○	
52		アカハラ	○	○			○	○	○	○	○
53		ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54		ジョウビタキ			○		○	○	○	○	○
55	スズメ科	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57		セグロセキレイ		○	○	○		○	○	○	
58		タヒバリ			○	○			○		
59	アトリ科	カワラヒワ	○	○					○	○	○
60		ベニマシコ	○	○	○	○	○			○	
61		シメ		○	○	○	○	○	○	○	○
62	ホオジロ科	ホオジロ	○	○		○	○	○	○	○	○
63		カシラダカ			○	○					
64		アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
65		オオジュリン		○	○	○	○	○	○	○	○
66	ハト科 (外来種)	ドバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
種数			39	45	42	49	44	48	46	46	42

賛助会費・寄付金・法人会費を頂いた方々（1，2月分）

どうもありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



CCC(Christmas Cormorant Count)2015 報告

永井 佑樹(CCC2015 東京農工大学実行委員会)

2015 年 12 月 23 日(水・祝)、第 13 回 CCC(クリスマス・コーモラント・カウント)が開催されました。CCC は、漁業被害などの人とカワウとの軋轢について関わってきた学生を中心に提唱されました。カワウの調査を通じて、カワウ自身やその問題についての現状、さらには野生生物の問題について考えるイベントとなっています。今回の CCC では、早朝における観察舎からのカワウの移動調査の他、熊田那央氏による世界のウ類についての講演、日没時におけるカワウのねぐら入り調査などが行われました。以下より、早朝調査の結果についての報告をさせていただきます。

早朝調査では、早朝に行徳鳥獣保護区にあるカワウのコロニーから移動するカワウの動きを調べるため、観察舎周囲の河川、海岸等に設定された 16 の調査地点から、飛来、飛去したカワウの羽数と移動方向を記録しました。観察舎は朝 6 時から 9 時の 3 時間、他の調査地点は 6 時 30 分から 8 時 30 分の 2 時間調査を行いました。当日は冷え込みましたが、大きく天候が崩れることもなく、無事調査を終えることができました。調査の結果、三つの大きな動きが確認できたので、それぞれについてまとめてさせていただきます。

[1] コロニーから旧江戸川、新中川を北上する動き

観察舎のコロニーにおいて、6:31 から 6:33 にかけて、128 羽の南西方向への飛去が確認された。観察舎西側の千鳥水門、浦安橋付近ではその直後に大きな群れは確認できなかったが、旧江戸側、新中川の合流地点である今井橋において、6:37 に 90 羽と 20 羽、計 110 羽が新中川を北へ遡上する動きが確認された。その羽数と時間から、観察舎で確認した群れと同じものであると推測した。その後、今井橋の上流に位置する松本橋において、6:45 に新中川の上流へ移動する 100 羽の群れが確認された。さらに上流の高砂橋では、6:50 に新中川、中川を横切る 100 羽の群れが確認され、10 分後に同じ群れと思われる 100 羽が新中川に着水、上流へ飛去した。それ以降、上流の飯塚橋においては同じ群れと思われるものは確認できなかった。ただし、後述の江戸川方面から北上する[3]の群れがこの群れと合流したのではないかと推測している。

[2] 千鳥水門から江戸川放水路へ移動する動き

観察舎に近い千鳥水門において、6:22 から 6:30 にかけて、計 156 羽の北～東方面への飛去が観察された。その後、千鳥水門の北東に位置する江戸川放水路において、6:28 から 6:31 にかけて計 102 羽が南東の区画整理地から田尻方面へ飛去する動きが確認された。羽数と飛来した方角から、同じ群れの一部であると推測した。そのように仮定した場合、減少した 50 羽ほどは、江戸川方面等へ分散したと考えられる。

[3] 観察舎から旧江戸川、江戸川、新中川、荒川を移動する動き

7:08 から 7:18 にかけて、観察舎において約 1500 羽が北方面へ飛去する動きを確認した。さらに、観察舎の北に位置する関ヶ島で 7:12 から 7:24 にかけて計 765 羽ほどが北東へ飛去した。その北の篠崎水門においても 7:14 に 400 羽以上、その後 7:26 にかけて計 127 羽が江戸川上流を移動する動きを観察した。上流の市川橋付近で 7:20 に 450 羽が南東(下流)から飛来し、北西へ移動した。この間、観察舎から飛去した 1500 羽から半分以下に群れの羽数が減少しており、その追跡及び分散方向の推定には至らなかった。ここまでの記録から、大きく数を減らしているものの旧江戸川、江戸川上を大きな群れが移動したことを確認できた。しかし、その後の動きは明確に掴めなかった。市川橋のやや南西、新中川上の松本橋において 7:20 に 600 羽から 700 羽が東から北西へ移動する動きは確認されたが、松本橋上流に位置する高砂橋、飯塚橋では大きな群れは見られなかった。その後、松本橋の南西、荒川上にある船堀橋で 7:35 に 350 羽の群れが北東から飛来し、荒川上流へ移動する動きが見られた。一時間後の 8:35 に松本橋付近で 300 羽から 400 羽が着水し、採食する様子が確認された。松本橋や船堀橋で観察された群れは、その羽数などが江戸川を北西へ移動した群れと一致しないため、[1]の新中川を北上した群れが混ざり移動していた可能性がある。

[前回との相違点]

前回の CCC2014 では今回と似た新中川を北上する動きが確認されていたが、今回と比べその規模は小さく、数十羽程度のものではあった。また、今回は前回に比べ海側の動きがあまり見られなかった。今回は舞浜沖で 80 羽前後の群れが観察されたが、今回は若洲、舞浜方面では大きな群れがほとんど観察されなかった。ただし、今回は前回までと異なり調査の開始時間を 30 分遅らせていたため、明確に動きが無かったとは断言できない。加えて、今回 1000 羽以上の群れが北の江戸川、新中川方面へ移動していたことから、一年前の前回と採食する場所及び移動パターンを変えている可能性も考えられる。

[まとめ]

今年の調査では、旧江戸川や江戸川、特に新中川上を多数のカワウが移動することを確認できた。一方で海側の動きは小さく、目立ったものは見られなかった。これらのことから、観察舎コロニーのカワウの多くは観察舎北側の河川へ移動し、餌を確保していることが推測される。前回から主要な餌場が変化した可能性も考えられる。ただし、今回は調査時間が2時間と短かったことから、群れの動きの推測における正確性は低下した可能性がある。この点については、今後考慮していく必要があるだろう。

CCC2015の開催、進行にあたり、認定NPO法人徳野鳥観察舎友の会、認定NPO法人バードリサーチ、及びCCCにご参加くださった皆様には多大なるご支援ご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。



観察舎前の堤防でくつろぐカワウ、セグロカモメ、オオセグロカモメ

投稿募集 お待ちしていま～す。

すずがも通信では、皆さまからの投稿を募集しています。参加された行事や観察会のご感想、身のまわりの自然の様子などを、お気軽にお寄せ下さい。イラストも大歓迎です。編集の都合により、すべての投稿を掲載できないことがあります。また、一部を修正する場合がありますので、ご了承ください。投稿に当たっては、氏名・連絡先のほか、すずがも通信の投稿であることを明記願います。あて先 郵便： XXXXXXXXXX

E-mail: tomonokai_suzugamo@ybb.ne.jp

2016年 1・2月 活動報告

市川市・千葉県等、他団体主催行事含む。定例観察会は除く

- ・1/13(水)県自然保護課打合せ：12月報告検査・カワウ調査・ヤギ導入
- ・1/14(木)市環境政策課と打合せ：観察会
- ・1/19(火)25(月)県自然保護課打合せ：カワウ調査
- ・1/28(木)県中央博斎木氏と打合せ：植物標本収容について
- ・1/30(土)浦安市郷土博島村さん：浦安市鳥類調査について
- ・2/5(金)市自然環境課と打合せ：観察会
- ・2/6(土)風呂田氏と打合せ
：行徳湿地フィールドミュージアム研究会と3/5 シンポジウム
- ・2/12(金)県自然保護課：1月報告検査
- ・2/15(月)県自然保護課：1月報告検査
- ・2/25(木)県自然保護課：来年度業務について

団体利用・視察等

- ・1/17(日)藤沢探鳥クラブ保護区見学(20名)
- ・1/19(火)塩浜学園3年生保護区見学(27名)
- ・2/21(日)市川市環境政策課・自然環境課保護区観察会(15名)
- ・3/2(火)行徳第二保育園野鳥病院見学(110名)

研修・実習受入等

- ・1/21・22(木金)浦安日の中職職場体験実習(2名)

取材対応など

- ・2/9(火)11(木)朝日新聞山田記者：観察会取材
- ・2/22(月)毎日新聞：3/5 シンポジウムと観察舎休館後の状況について
- ・2/24(水)NHK 取材下見：3月下旬頃予定
- ・3/5(土) ケーブルテレビ・毎日・朝日新聞取材

保護区シンポジウム 「行徳生物多様性フィールドミュージアム研究会」活動開始宣言。

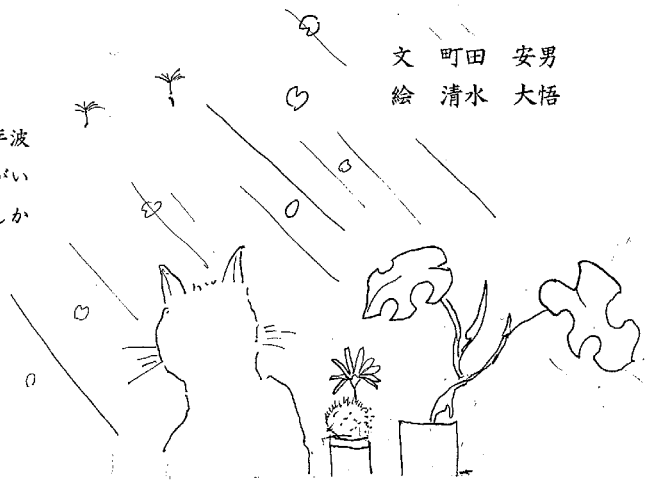
企画行事等

- ・2/28(日)10-12 野外講座「アニマルトラッキング」講師箕輪義隆さん
参加16名。浄化池を中心に足型石膏取りなど。
- ・3/5(土)保護区シンポジウム(行徳公民館)：46名
「行徳生物多様性フィールドミュージアム研究会」活動開始宣言

新規会員 どうぞよろしくお願いたします。

ニャーのとことん

俺は猫のジュンペイ。飼い主のヒゲともども、よる年波には勝てない日々だが、季節は春。ヒゲは「やるがいっぱいあって」外に飛び出していく。そんなヒゲ羨ましかったりする。



文 町田 安男
絵 清水 大悟

早いもんで、何だかんだのと、ヒゲと暮しはじめてひと昔以上がすぎた。

亡くなったモモエばあさん、弟分のエイジロウのことなど、オイラの身の周りもそれこそ数え切れない程のコトがあった。

ここへ来てからこの方ずっとオモテに出たコトが無いオイラにはガラス越しに見る世界が全てだ！

限られた中で見る外界にも季節の移り更りが感じられ、射し込む陽光が力強く、眼を細める日々があつと云う間にきた。やがて陽影を探す頃には新しく生えかわったピカピカの毛皮に更るのだ。

モノクロームの世界からカラーに空・樹・花・草など全てが一瞬される頃ともなると雀たちが一勢に朝夕、コーラス。

外から、クックックッとくぐもった声でアズマヒキガエルがメスを呼ぶ声が始めると、オイラも何となくウキウキしてくる。

水面がキラキラと光り、水草のすき間でメダカ、スジエビたちが食事に余念が無く、福寿草、鶯宿梅が咲き始める春まっさかりともなる。オイラはそれまでのイイ子をかなぐり捨てて外に逃げ出したいのだが、ヒゲの頑丈な壁に阻まれ未だに達成できないでいるのが永年の課題だ。

毎年、の事乍ら、このように極く当り前に自然の恵みを分け与えてくださる神様に、いつも乍ら感謝する一方で、フトもう亡くなった弟エイジロウの事が思い出されて切ない。

神様は酷なコトをなさるもんだ・・・

過日思い立って、冷蔵庫の後ろにもぐりこんだ。

ここは2人で、ヒゲがもらって来た花束を目茶苦茶にして、逃げ込んだ思い出の所、思ったとおり、そこにはエイの抜毛と匂いが残っていてくしゃみが出た。

フト、外に目をやると大きな影がよぎった。どうやらヒヨドリが食べていたミカンがカラスが横取りに来たらしく、ヒヨドリたちの騒ぎだてるのを尻目にノーノーとしている。

ヒゲが棒を持ち出したが、20mばかり飛んで観察しているのは立派な根性。どっかの政治家でこういう手合いがTVに出ていた。

オイラも見習ってヒゲのは鼻をあかさねばと連日奮闘努力の甲斐もなく今日も涙の陽が落ちるのくり返し（これは寅さんのパクリ）

ヒゲの話によると今新浜は大変な事になっているそうだ。対応するこちら側に一枚看板が無いのが最大の弱点で！

対外的にこれがマイナスの要素だと云っているが、若い人達がそれぞれそれこそ前向きに力をつくされているからそのうちに灯がみえてくると、いつものノー天気であるようだ。

このところ気温が高かったせいか保護区内ではニホンアカガエルの産卵が2月20日に3個、27日には8個、28日に3個と去年の11個を3個も上回ったとヒゲは上機嫌、ただアズマヒキガエル

が未だ姿を見せないのが心配だとも云っているが、去年は皆無だったから余計、気もめるらしい。

先日、保護してあったアメリカザリガニは4匹とも子供を残したままどこかへ蒸発・・・

自然界でも育児放棄とヒゲは云っていたが、どうやらこれはバットの水位が雨で上がった結果、外に出たようで、タヌキに喰われたのではないのは、周囲に骸が無いことでわかったらしい。

池回りは木下さんが積極的に作業をつづけてくれ、水通りがかなり改善されあとは5月のショウブ配りに間に合うように伸びてくれることが唯一の気がかりらしい。

ヒゲは目下、北池の反対側にある水落とし場の改通を先延ばしにしてNo.1池の石組みを着々と進めている。何でも、水の口に石と石の空き間を多く作ってトーヨシノボリなどの住処を造成してゆくゆくはウナギ、アカテガニがいつでも見られる所を完成させるのが目的だと云っている。

オイラはあんな上まで、しかも狭い水路を伝ってウナギなどが住みつくかと疑問をぶつけたが、当人は確信しているから本当になるかもしれない！

以前、水車池を改修した時に水がかれた底に多数の大型トーヨシノボリを見たことが、今だに頭の隅に焼きつけられるらしい。

ドブ池からポンプアップされた汚水？の中に力強く生きる“モノたち”が存在することを改めて感じられる所をずっと保護区内に残すことが使命だとヒゲは勝手に思い込んでいるフシが顕著になってきた！

ヒゲもこのところ、経年劣化！がかなり進んで、昔の日々のように作業ができなくなった結果。

池周りがアシなどに浸食され、かなり浅く、小さくなったので、掘り下げたいと気にはしているのだが、現時点では後継者がみつからないのが難点！どこかにボランティアでも力を貸してくれる人がと四六時中、嘆いているのが現実。

ビールを飲み乍ら、ヒゲが常々もらす愚痴に、人手が足りないとかぼす回数が増え始めた。

曰く、観察は好きだが、そのためにしなければならぬ事は人任せというヤツが多すぎると・・・

つまり、手を汚したり汗を流すのはイヤと、知らぬ顔の半兵衛を決めこんでいるくせに何かあると一番騒ぎ立てる連中と云ってはばからない！

来月はもう花の四月、区内の桜の観察会が去年と同じように多数の参加者でにぎわうことは想像するのも楽しいなこと。

あの盛況ぶりをみると本当に日本人は桜が好きなのだと思う反面、いつもこの半分位でもビクターがあつたらなーとヒゲがぼやいていたが、オイラも同感、しかしその時インストラクターはどうするの？なんてうれしい事態が取り越し苦労でなくなる日が来ることを夢見ている。

区内の桜は鳥たちの苦労のプレゼントだから結実。

しかし鳥と人間の嗅覚は違うから人間が味わってもおいしくないと思ひこむのは人間の勝手で、やはり動物も優れた嗅覚をもっているだ。

実際に喰べ比べてみると味に大きな差が有りおいしいものから順に無くなるのが経験からわかるとは、ヒゲの弁。

これは他の木の実などにもみられることでトウネズミモチなどは一番あとまで売れ残っているのを見てわかる。

アメリカザリガニも、シジミとタニシと喰べ分けている。※

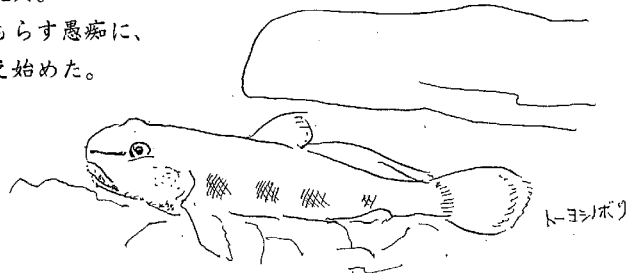
では、どちらを？

答えはシジミ。

彼等はハサミの先に、カニと同じようなセンサーを持っているらしく確実に識別をしているようで、とても人間の及ぶところではない！

と、脱線してしまったようだが、本当のところ、ヒゲがボケないうちに何とかしなければならぬことが多すぎる。

※これは偶然、ツレが発見観察した。



鳥類の渡り調査 最前線に触れる

3月9日、慶応大学三田キャンパス東館で行われたワークショップ「鳥類の渡り 衛星追跡の現状と課題」に参加させていただきました。いやあ、面白かった！10時から昼食をはさんで16：30までがあつという間でした。

午前の部は山階鳥類研究所の尾崎清明さん、伊豆沼の嶋田哲郎さん、コーディネーターを務められ、いちばん（に近いくらい）楽しそうだった樋口広芳さん、と学生時代からよく存じ上げている昔からのお友達ばかり。内容も「ワイルドライフ」や「ダーウィンが来た！」などで概略は伺っているお話で、とてもわかりやすかったです。

尾崎さんのアホウドリでは鳥島から小笠原の鴎島への移住作戦で、ついに鴎島生まれの♂と野生の♀の間で今年待望のヒナ誕生！（産卵・抱卵にこぎつけたけれどたしか2年連続ヒナを見ず）、5年間で70羽のヒナ（誘拐、と尾崎さんは言っておられました）を移し、なんと69羽までを無事に放せたそうです。最長で4年7カ月にわたって衛星追跡ができ、北太平洋全域をアホウドリたちが行動圏にしていること（もちろん大陸棚が主要）など。

嶋田さんはコクガンやハクチョウ類をはじめ、各種の水鳥での実例を話され、伊豆沼方面からの鳥は北海道からオホーツク方面を経由してロシアの繁殖地（一部は北極圏）に向かうが、西日本方面のものは韓国から中国・ロシアに向かうという東日本とは異なる経路があるようだ、とのお話。

樋口さんはサシバやハチクマの秋と春でまったく異なる渡りルートのお話（秋は列島づたいに迂回しながらマレー半島の先端まで到達するが、春はタイなどそれぞれの場所でしばらく滞在してから韓国を回って日本に到達）、そしてアジア各国を渡り鳥が歴訪してゆくすばらしさを話されました。

午後の部は主催者のC L S (Collect Localisation Satellite)のヤン・ベルナルドさんから衛星追跡のアルゴスの現在の技術進化、韓国のキム ジンハンさん（国立生物資源研究所）、カン ソングさん（同）がクロツラヘラサギやトモエガモ、また（衰弱して保護され放鳥時に発信機をとりつけられた）トビやノスリについての衛星追跡による移動の状況をお話してくださいました。

なんでも発信機そのものについては7ミリ角のチップが既に試作され、各メーカーに試供される段階に達しているとのこと。す、すごいっ。実用化もそう遠くはないだろうというお話です。もっとも主流であるソーラーパネルのサイズがあるので、「小鳥用」にはまだ遠そうでした。それでもサイズの軽薄短小化についてはそろそろ行き着くところに来そうで、あとは普及（価格）が問題とのこと。

韓国のお話では、トビやノスリが希少（それも衰弱個体を救護していること、それに装着するということ）にびっくり。

中国科学アカデミーの方のユリカモメのお話は都合で不参加とのことで残念でした。タイのマヒドル大学のアヌワット・ウィラツダクルさんのお話は、シロスキハシコウ、チャガシラカモメほかの装着結果（鳥インフルエンザの関係で予算がついている）で、シロスキハシコウはかつては渡りをしていたが（1974年の標識調査結果にマックルーア博士のお名前。山階鳥類研究所の故吉井正 先生とともに故蓮尾嘉彪の師・上司だった方です）ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の増加に伴い渡る必要がなくなり留鳥化したようだ、とのこと。チャガシラカモメは移動経路のこともあり、鳥フルウィルスの運び手の可能性あり、とのこと。

さいごにフランスのゼリウス（X E R I U S）社の方が新製品「ALTEOS 18」について説明されました。アルゴスシステム（衛星追跡）とGPSの複合機（これからはこちらが主流になると他の方々のお話にもありました）で、わずか18グラム（GPSは大きさと重さがネックで、20グラムを切るのはむずかしい）、しかも装着した後、とりはずさなくても近距離（10メートルくらい？）ならデータを読み込める、とのこと。実物をお持ちになって、また外装の色や、ソーラーパネルが反射して捕食者の目につきやすいことを考慮し、反射しない仕様になっていることなども言うておられました。

ともかくとても面白く刺激的な催しでした。韓国の方々が「これは第1回目、第2回目はぜひ韓国で」と言うておられました。参加は80名くらいだったか、ゆったり柔らかくひじ掛けもある椅子を含め、居心地のよい会場でした。

衛星追跡システムは、どれほど精度を上げて数百メートルまで（もっと上げようとするなら、衛星の位置を思いきり低くしたり、いっぱい空にならべたりしなくちゃいけないのかな）。GPSは数メートルにできるので、広範囲をカバーする衛星追跡と位置の精度が高いGPSの複合機がこれからは主流になるだろう、というの、納得です。

鳥への負担をみなさん言うておられましたね。生涯にわたって背負い続けることになるのは申し訳ないのだけど、半年とか1年で脱落するようにはできても、3年とか7年とかで脱落するような方式はなかなか開発できない、と。

ちなみにアルゴスシステムを使う場合、日本では無線技術？の資格を持つ必要があるのと、1個体につき1カ月8千円強の料金とのこと。フランスのアルテウス18は、1台たしか2480ユーロ。経費が、と樋口さんも切実に何度も言うておられましたね。使用者が増えるほど料金は安くなるはずだけど、一方では目的がはっきりせず、報文もないままにやっている例も増えている、と。

慶応大学三田キャンパス、初めて入りました。おしゃれでしたね。正門から東館に行く坂道に桜の並木があって、濃い目のピンクの花が満開。寒緋桜系でしょうか。河津桜とは樹の感じが違ってすらりと高く、たぶん樹齢も40年くらいはあったのではないかしら。

参加無料・コーヒーやボールペンまで頂戴して、内容も最高。主催されたみなさま、参加させていただいてほんとうにありがとうございました。（蓮尾 純子）

2016年（冬） 行徳地区鳥類調査結果

調査場所	新浜鴨場 (除く北池)	保護区					江戸川放水路		塩浜海岸 (市川側三番瀬)	総計	
		本土	北池・金魚池 ・浅緑水機場	丸浜川 久喜間三角	周辺緑地	下水処理場	小計				
調査日・天気	1/13晴	1/31 曇時々晴							1/10晴	1/31 曇時々晴	
種類\調査時刻	9:35-11:30	8:15-10:20	8:40-9:15	7:45-8:55	9:18-10:10	8:55-9:30			10:30-12:00	11:05-12:05	
オカヨシガモ			6			1	7				7
ヒドリガモ								200	181	381	
マガモ			4	5			9			9	
カルガモ			18	42		15	75			75	
ハシビロガモ	99			19		3	22			121	
オナガガモ	826	1		20			21	1	25	873	
コガモ	31	2		43			45	20		96	
ホシハジロ	407	41	99				140	500	30	1,077	
キンクロハジロ	157	34	15				49	200		406	
スズガモ		161					161	200	30,000	30,361	
ホオジロガモ		2					2	5	6	13	
ウミアイサ								7	5	12	
カイツブリ	1	7					7	2		10	
カンムリカイツブリ		5					5	20	16	41	
ミミカイツブリ									2	2	
ハジロカイツブリ	1	9					9	20	93	123	
キジバト	4	7	2	3	3	5	20	2		26	
カワウ		13	11		423		447	10	145	602	
ゴイサギ				2			2			2	
アオサギ		1	11		2	1	15	15		30	
ダイサギ	1	2		1			3	3		7	
コサギ				1			1	2		3	
クイナ			2	1			3			3	
バン				2			2			2	
オオバン	16	18	10	23		1	52	150	60	278	
ムナグロ								4		4	
シロチドリ								30		30	
ミヤコドリ								7		7	
イソシギ		2	1	1			4	1		5	
ハマシギ								3	142	145	
ユリカモメ			5	202			207	50	1	258	
ズグロカモメ								1		1	
ウミネコ								1		1	
カモメ									1	1	
セグロカモメ	2		8	9			17	20	16	55	
ミサゴ									1	1	
トビ								1		1	
チュウヒ			1				1			1	
オオタカ	2		1				1			3	
ハイタカsp									1	1	
カワセミ	2	1	2	1			4	1		7	
コゲラ		1					1			1	
モズ	2	5			1		6	2	1	11	
オナガ			4	11	8		23	3	10	36	
ハシボソガラス		1					1	2	4	7	
ハシブトガラス	2	2				2	4	4	1	11	
シジュウカラ	4	5		7	4	2	18			22	
ヒヨドリ	21	36	28	30	8	8	110	20	6	157	
ウグイス	4	9	2	2	1		14	1		19	
メジロ	19	37	3	9	13	12	74	10	60	163	
レンジャク類sp. ?						10	10			10	
ムクドリ	32	85	65	24	2		176	20	7	235	
シロハラ				1			1	1		2	
アカハラ									1	1	
ツグミ	1	35	5	7			47	20		68	
大型ツグミ類sp.		2	5	3	1		11			11	
ジョウビタキ	1	2	1	1	1		5	2		8	
スズメ	16			42		11	53	200		269	
ハクセキレイ	1	1	1	1	1		4	10	1	16	
セグロセキレイ		1					1			1	
タヒバリ		2					2			2	
カワラヒワ		5				7	12	24		36	
シメ						1	1			1	
ホオジロ		2					2			2	
アオジ	10	19	2	5			26	5		41	
オオジュリン		22	20				42	5		47	
合計	1,662	578	332	518	468	79	1,975	1,805	30,816	36,258	
種数計	25	34	26	28	12	13	60	44	26	63	
番外:ドバト								60		60	
アヒル	155									155	

調査担当者…保護区・三番瀬(塩浜): 東良一・東有子・清水大悟・大林岳史

新浜鴨場: 山口誠・金子伸幸・岡川昂己 放水路: 石亀明(日本野鳥の会東京・千葉県野鳥の会定例探鳥会)

(註) 大型ツグミ類spは、アカハラまたはシロハラを指す。

2016冬季水鳥調査(東京湾 奥部)			2016年1月 まとめ 田久保晴孝							
調査場所	盤洲	茜浜	谷津	三番瀬船橋	三番瀬塩浜	三番瀬計	江戸川放水路	行徳保護区内	葛西	
調査日	1/3晴	1/11晴	1月11日	1/11晴	1/31曇り		1/10晴	1/13・1/31	1月13日	
調査時間	9:30~16:00	13~14	9~11	9:30~10:30	11~12		10:30~12:	8~11:30	11:30~16:	
代表調査者	田久保晴孝	杉本秀樹	杉本秀樹	田久保晴孝	東良一	計	石亀明	東良一	田久保晴孝	合計
オカヨシガモ	20	85	69			0		7	4	185
ヨシガモ	3					0				3
ヒドリガモ	30	6	381	33	181	214	200		13	844
マガモ	2					0		9	4	15
カルガモ	80	48	9			0		75	80	292
ハシビロガモ	7	1	15			0		121	7	151
オナガガモ	2		630	105	25	130	1	847		2379
ヨガモ	250		82			0	20	76	68	496
ホシハジロ	60	107	8		30	30	500	547	277	1529
キンクロハジロ	60		1			0	200	206	11	478
スズガモ	4000	4407	25	11051	30000	41051	200	161	1500	51344
ビロードキンクロ				1		1				1
ホオジロガモ				15	6	21	5			26
ウミアイサ				7	5	12	7	2	6	27
カイツブリ	3		2			0	2	8	7	22
カンムリカイツブリ		176		7	16	23	20	5	900	1124
ミミカイツブリ					2	2				2
ハジロカイツブリ	3	10		57	93	150	20	10	350	543
カワウ	300	1000	6	12		12	10	417	70	1960
ゴイサギ			5			0		2		7
アオサギ	5		11			0	15	15	5	51
ダイサギ	2		4			0	3	4	1	14
コサギ	1		1			0	2	1	7	11
ヘラサギ	1					0				1
クロツラヘラサギ						0			1	1
クイナ						0		3	1	4
バン			1			0		2	1	4
オオバン	40	37	214	128	60	188	150	68	25	725
ムナグロ						0	4			4
ダイゼン	50			57		57				107
ハジロチドリ				1		1				1
イカルチドリ			1			0				1
シロチドリ	50			39		39	30		41	160
ミヤコドリ				244		244	7			251
セイタカシギ			10			0				10
タシギ	1					0				1
オオハシシギ				3		3				3
ダイシャクシギ						0			5	5
アオアシシギ						0			3	3
イソシギ	3	1	1			0	1	4	4	14
ミユビシギ				89		89			4	93
ハマシギ	500		3	1350	145	1495	3		179	2180
ユリカモメ	20	5	54	3	1	4	50	207	35	375
ズグロカモメ						0	1		1	2
ウミネコ						0	1			1
カモメ				2	1	3			5	8
セグロカモメ	10	1		24	16	40	20	16	10	97
オオセグロカモメ	3					0				3
カワセミ						0		6	2	9
ミサゴ	3			1	1	2			1	6
トビ	5					0	1			6
チュウヒ	1					0		1		2
ハイロチュウヒ	1					0				1
オオタカ	1		1			0		3	1	6
ノスリ	2					0			2	4
チョウゲンボウ		1				0				1
ハヤブサ			1	1		1			1	3
カモ 計	4514	4654	1220	11212	30247	41459	1334	2051	1970	57770
シギチドリ計	604	1	15	1783	145	1928	45	4	236	2833
タカ・ハヤブサ計	13	1	2	2	1	3	0	4	5	29
水鳥 種数	27	13	22	20	14	21	25	24	31	49
水鳥個体数	5446	5884	1533	13228	30581	43809	1472	2819	3627	65470

2016 冬季水鳥調査(東京湾岸奥部)

2016 年 1 月

田久保晴孝

2016 冬季水鳥調査では、49 種 65,470 羽の水鳥（カモ目、カイツブリ目、ペリカン目、ツル目、チドリ目、カワウ、カワセミ）を記録した。

個体数が多い種は、①スズガモ（78.4%）、②オナガガモ（3.6）、③ハマシギ（3.3）、④カワウ（2.9）、⑤ホシハジロ（2.3）、この 5 種で水鳥の個体数の 91% を占めた。スズガモは冬季東京湾岸奥部を代表する水鳥。

カモ類は、14 種 59770 羽で水鳥の 88% を占めた。

カイツブリ類は、4 種 1691 羽で水鳥の 2.6% を占めた。

カワウは、1960 羽で水鳥の 3.0% を占めた。行徳保護区に集団繁殖地（コロニー 5000 羽）がある。春～秋は三番瀬や葛西沖で採餌。

クイナ類は、3 種で水鳥の 1.1% を占めた。オオバン（725 羽）。近年、増加している。

シギチドリ類は、14 種 2833 羽（8.7%）を記録した。①ハマシギ（77%）②ミヤコドリ（8.9）③シロチドリ（5.6）④ダイゼン（3.8）⑤ミユビシギ（3.3）この 5 種で、シギチドリ類の個体数の 98.6% を占めた。ハマシギは、冬季東京湾岸奥部を代表するシギ。

シロチドリ、ダイゼン、ハマシギは、減少している。ミヤコドリは、増加している。（12/6 383 羽過去最高数）

カモメ類は、6 種 486 羽（0.7%）を記録した。以前は多数（数千羽）観察されたが、近年減少している。2016 年 1 月は、特にすくない。

種類数は、チドリ目（シギ科、チドリ科、カモメ科など）20 種が多く、次にカモ目（14 種）が多い。

調査地

個体数が多い所は、①三番瀬（塩浜 30581 羽 47%）②三番瀬（船橋 13228 羽 20%）③茜浜（5884 羽 9%）。いずれもスズガモが多い調査地。

シギチドリ類の個体数が多い所は、①三番瀬（船橋 1783 羽 63%）②盤洲（604 羽 21%）③葛西（236 羽 8%）。いずれの広い干潟がある。

種類数は、①葛西（31 種）②盤洲（27）が多く、多様な環境（林、川、池、アシ原、干潟、浅海域）がみられる。

タカ類（タカ科ハヤブサ科）が多い所は、①盤洲（6 種 13 羽）②葛西（4 種 5 羽）③行徳保護区（2 種 4 羽）。いずれも種類数が多い所で、生物多様性に富むところ。

調査地のコメント

盤洲（小櫃川河口干潟） 林、アシ原、干潟、河口、池、水田、など多様な環境があり野鳥が多い。全国有数の生物多様性に富むところ。カワウのコロニーがある。シギチドリ類、カモ類の個体数が減少している。珍しいヘラサギが観察された（1/3）。

茜浜（幕張の浜を含む）には林、人工干潟、浅海域があり、カモ類が多い。

谷津干潟 ラムサール条約登録湿地、日本を代表する湿地。林、淡水池、アシ原、干潟がある。カモ類が多い。シギチドリ類は減少している。シギチドリ類は、三番瀬（船橋）と谷津干潟を潮の干満で移動している。1/11 午後ハマシギ（700 羽）オオハシシギ（3）ダイゼン（65）、ハジロコチドリ（1）、がふえた。（三番瀬（船橋）より移動）

三番瀬（船橋）広い干潟と浅海域がある。しかし、淡水池や広い湿地はない。野鳥の種類数は少ないが、シギチドリ類とカモ類の個体数が多い。日本有数のシギチドリ類の渡来地。陸側にふなばし三番瀬海浜公園があり、人の利用が多い。

三番瀬（塩浜） 干潟と広い浅海域。スズガモが多い。シギチドリ類は、干潮時三番瀬（船橋）から飛来する。

江戸川放水路 三番瀬の入り江。（人工の放水路 可動堰があり洪水時に放流。）泥干潟とアシ原がある。トビハゼなど希少生物が多い。ムナグロの越冬群がみられる。

行徳保護区（個体数は宮内庁新浜鴨場を含む）林、アシ原、淡水湿地、干潟と浅海域など 40 年かけて多様な環境がつけられている。生物多様性に富み、タカ類も多い。カワウのコロニーがある。

葛西海浜公園・鳥類園 干潟を埋め立てつくられた都立公園。林、干潟と浅海域、アシ原、淡水池、汽水池など多様な環境があり生物多様性に富み、タカ類も多い。都内で一番の野鳥の渡来地。スズガモとカンムリカイツブリが多い。汽水池で淡水性のシギチドリがよく観察できたが、減少している。ダイシャクシギは東京湾岸で葛西でしか観察できない。ミヤコドリなどシギチドリ類の多くは三番瀬（船橋）から飛来する。珍しいクロツラヘラサギ、ズグロカモメが観察された（1/13）。

盤洲（1/3 小櫃川河口干潟（盤洲）自然観察会、千葉県野鳥の会） 茜浜、谷津干潟、三番瀬（船橋）（1/11 千葉県野鳥の会水鳥調査） 行徳保護区、三番瀬（塩浜）（1/31 行徳野鳥観察舎友の会） 江戸川放水路（1/10 新浜探鳥会日本野鳥の会東京）

3月狂騒曲

蓮尾純子

3月クライ！と毎年思う大きな理由の一つは「確定申告」。もう〇十年も毎年続けているのに未だに慣れません。嘉彪があらかたやってくれていたのですが、今は原稿も減って大したことはないのに、毎度毎度泣きの涙。去年は税務署の電子申告ソフトが開かず、とうとう電話で問い合わせたら、わが家のパソコンのウィンドウズXPには「もう」対応していないということがわかりました。パソコンを新調した今年こそは大丈夫、と思ったら、また開かず。ウィンドウズ10のネット環境「マイクロソフト・エッジ」には「まだ」対応していません、とのこと。しくしくしく。

それでも何とか入力をやりとげて、いざ送信しようとしたら、住基カードによる「電子署名」ができません。カードの表面に書かれた有効期限まではまだ間があるのに。そう言えば去年の提出時、期限切れでないかとえらく心配したことを思い出しました。そうだ、電子署名の期限はたしか3年で切れるのだった。大慌てで翌日行徳支所に駆け込むと「住基カードによる電子署名の更新（期限切れなので新規登録）は12月22日で終わりました。マイナンバーによるカード発行には時間がかります」

結局、書面提出になりました。入力済みの申告書をプリントアウトしたので、必要な書類を貼付して、後で支所に提出しに行きます。毎年毎年泣き言を聞かされているゆうこさま・野長瀬にいさま、ごめんなさいね。まあ、ここまできるとあとは笑うっきゃないよねえ。

現役時代は各種報告書が3月の更なる試練でしたが、責任がぐっと減ったのでこちらはもうこわくはない。せっせと各所お墓参りを済ませればよいはず。仕事が楽な分、無期限休館中で生じかね

ない通行や周囲のお客様と内部スタッフ間のギャップを減らす努力をいたします。

友の会とは別組織で行っている「行徳野鳥観察舎を愛する者一同」の署名運動のほうは、おかげさまで昨日1万5千名に達しました！開始後3カ月を待たずに、です。要望書を提出してくださった会や団体もWWFジャパンや日本野鳥の会、日本自然保護協会ほか。要望書だけでなく、独自に署名運動を展開された千葉県野鳥の会や、会報「ユリカモメ」によるキャンペーンを続けておられる日本野鳥の会東京など、北海道から沖縄に至る全国各地からのご支援・ご賛同、ほんとうにありがとうございます。

2月3日に大久保博市川市長が鈴木栄治（本名・森田健作は通り名）千葉県知事に対して、行徳野鳥観察舎の存続を求める要望書を提出されています。3月中に県の回答があるはずですが、行政改革審議会の答申待ちという内容になるのかもしれない。よい方向の回答でありますように。

さて、わが家の4人のマゴのうち、3月は3人がそれぞれ高校・中学・小学校を卒業し、4月から専門学校・高校・中学に入学します。今週は卒業式が2つだそうで、親たちはたいへん。春休みのうちにもうひとりのおばあちゃん（もちろんおじいちゃんも、ですけれど）のお墓参りに行田に行って、卒業・入学の報告をしようね、と話しています。

猫どもは、変わらず。やわらかくてあったかく、わがままで悪さをしています。季節の変わり目、百花繚乱の時期もすぐそこ。みなさまどうぞお元気で。

☆本文中にもありますが、執筆者は、個人的に署名活動に行っておられます。友の会の組織として行っているものではありませんが、このコーナーの主旨から、自由にお書きいただきました。（編集部）

行事のご案内 どなたでも参加できます。4月は年によってはまだ風が冷たく寒いです。戸外での行事は薄着に注意

✿ サクラの花観察会 4月2日(土) 10時～12時 13時半～15時半

いずれも野鳥観察舎観察舎前に集合し、保護区の中をまわります。

行徳の桜の隠れた名所、行徳鳥獣保護区。ソメイヨシノともカワヅザクラとも違う、色も大きさもさまざまなサクラ達は鳥が運んだ種から芽吹きました。詳細は行徳野鳥観察舎(047-397-9046)友の会まで

☆ ボランティアデー 毎月第4土曜日

13時から16時ごろまでの予定です。観察舎スタッフといっしょに保護区の管理作業をしてみませんか?参加ご希望の方は、事前に行徳野鳥観察舎までお問い合わせ下さい(電話047-397-9046)

☆ 行徳生物多様性フィールドミュージアム

4月24日(日)、5月29日(日)6月26日(日)10時～15時

保護区の生物多様性や景観、環境そのものを展示・研究資源として、保護区の野外博物館機能を研究・発信していこうというプログラム。詳しくはチラシをご覧ください。

☆ 江戸前干潟研究学校 4月17日(日)、5月15日(日) 10時～15時まで

昨年度につづく実施。東邦大学理学部東京湾生態系研究センターの指導により、保護区内の湿地や干潟で環境学習をするプログラムです。詳しくはチラシをご覧ください

☆ カウント 保護区や三番瀬の水鳥を数えてみよう! 初めての方もお気軽に

4月23日(土) 保護区入り口(白鷺公園側)午前8時集合。保護区を周ったあと渡り鳥が群れる三番瀬へ。詳細は行徳野鳥観察舎(047-397-9046)友の会まで

☆ 三番瀬自然観察会(船橋) 4月3日(日) 5月1日(日)

集合: 船橋海浜公園バス停10時 解散: 14時ごろ。交通: 京成船橋駅南口(JR船橋駅南口より徒歩2分)

より船橋海浜公園行きバス乗車、終点下車。またはJR京葉線二俣新町駅より徒歩25分(バスもあり)

持物: 弁当、飲み物、帽子、雨具、長靴(または濡れてもいい靴)、観察用具など 参加費: 200円

主催: 千葉県野鳥の会 問合せ: 田久保()。

春の渡りの季節です。シギやチドリたちが北国への旅の途中で日本の干潟に立ち寄ります。



求愛ダンスをするコガモのオス。丸浜川でもみられる。

保護区の観察会のご案内

どなたでもご自由に参加できます。

保護区の中には、以下の観察会などで入ることができます。多少汚れてもよい靴で。春はまだ風が冷たく寒い日もありますので暖かい服装でご参加ください。(トイレ、水飲み設備はありません。)

☆定例園内観察会 (毎週日曜、祝日) * 事前に観察舎前で名簿にご記入ください。

集合：行徳野鳥観察舎前 13時30分 解散：15時30分ごろ。*雨天中止

問い合わせ：野鳥観察舎 (047-397-9046) 協賛：行徳野鳥観察舎友の会

春本番。花や木の芽、鳥たちのさえずり。冬を乗り越えた生命たちが溢れています。

☆定例新浜観察会 (毎月第2日曜日) 4月10日(日)、5月8日(日)、6月12日(日)

集合：地下鉄東西線 行徳駅前(改札を出て左前方の広場) 10時

2コースに分かれます。「新浜保護区コース」は保護区の中をゆっくり回り、13時30分ごろ解散。「放水路経由コース」は、バスで江戸川放水路へ、その後保護区を巡り、15時30分ごろ解散。解散場所はいずれも観察舎前。

主催：行徳野鳥観察舎友の会、日本野鳥の会東京支部、千葉県野鳥の会。 問合せ：東 良一 ()

参加費：200円(18歳以下は無料) 持物：昼食、飲物、帽子、放水路経由コースはバス代400円(子供200円)

すっかり春の装いになった冬鳥たちを見送り、華やかな夏鳥・旅鳥と出会います。楽しい季節です。

☆夕暮れ観察会 (毎月第4土曜日) 4月23日(土) 5月28日(土) 6月25日(土)

集合：行徳野鳥観察舎前 16時30分 解散：18時30分ごろ。

問い合わせ：野鳥観察舎 (047-397-9046) *小雨決行

初夏の夕暮れ。ノイバラやスイカズラが香り、水鳥が鳴きます。ツバメやコウモリも夕空を舞います。

☆平日観察会 4月7日(木)、5月12日(木)、6月2日(木)

※5月は第2木曜日です。

集合：行徳野鳥観察舎前 10時 解散：正午ごろ *雨天決行

問い合わせ：野鳥観察舎 (047-397-9046)

春風に心浮き立たせ、花咲き乱れる観察路を歩いていきましょう。コチドリやウグイスも歌っています。

編集後記

☆春はいつも忙しい。せっかく咲いた花たちの美しさを心穏やかに楽しみたい、と願うのは我儘だろうか(D)

すずがも通信 No. 217(隔月発行)

2 0 1 6 年 4 月 1 日 発 行

発 行 所 認 定 特 定 非 営 利 活 動 法 人 行 徳 野 鳥 観 察 舎 友 の 会

E-mail tomonokai_suzugamo@ybb.ne.jp

年会費 賛助3000円以上、普通2000円、電子1000円、ジュニア(18歳以下)500円、法人・団体10000円以上

郵便振替 行徳野鳥観察舎友の会 02220-4-6129

URL http://homepage2.nifty.com/suzugamo/top.html

編 集 清水大悟、若林直樹、西方明雄、岩崎加奈子(庶務)

印 刷 株式会社 オフィス ティースカイ

[千葉県行徳野鳥観察舎(休館中)]